

社会の閉塞感反映か

中国で日本に「良くない」印象を持つ人がこれほど増えたのは衝撃的だ。ここ1年で沖縄県・尖閣諸島国有化といった特別な事情があったわけでもないのに、対日感情が激しく変化したのは、両国間の問題以外にも別の要因を考えざるを得ない。

交流サイト(SNS)の対日世論が影響した可能性もある。「日本人学校はスパイ組織」といった投稿など非常に偏った見方が共有されている。

中国では最近、市民を無差別に殺傷する事件が目立つ。閉塞感が強まる中、行き場のない不満を社会にぶつける「社会への報復」との見方がある。日本人や米国人も被害に遭っており、鬱屈した不満の矛先が日本に向かいやすい土壌ができているのかもしれない。

世論調査の結果から、中国人が「中国は国際社会に受け入れられている」と自信を深めていることがうかがえる。中国外交への期待が高まる一方で、相対的に日本の重要度が下がったことも考えられる。

2024年12月02日 19:09 (共同)